

くすべし、薄き程根ふとし、よき程さかへたる時、上を玄かとおみ付べし、かくせざれば土和らかにうきて、葉のみえぎり、根却てふとからず、ひげもありて中うつけ、柔らかかにして牙脆からず、種子を残し置て、來三四月早く蒔て、手入を委しく玄たるは、よくいでき根大きなり、にんぞむは、土地のつよくかはきて、あらしきを好まず、常に畦の中少うるほ、ひ有事よし、いか程も薄く間引て、一本づゝのわきをほりて、油糟を入れれば、大かたの大根ほどはふとる物なり、是菜中の賞翫にて、味性も上品の物なり、菜園にかくべからず、但にんぞんは其種子を家におさめずとて、其地を前よりよくこしらへをき、子を取て家へ入ず、其まゝ、蒔物なり、

〔甲斐國志百二十三産物及製造〕胡蘿蔔 長芋 是モ本州ニ乏ク、常ニ江戸ヨリ駄運セシニ、今ハ江戸ニンジント云種ヲ植テ、彼物ニ劣ラズ、所在ヨリ産出セリ、物皆時運ニ乗ジ、令然カ、此等ハ種藝ノ功ニ依ル程ノ事ニモ非ジ、